



青年の変化に社会は何を

広島国際大学長 上里 一郎
(国立江田島青年の家運営委員)

青年といっても殆んどが大学生や大学院生だが、彼らと生活を共にしていると時々不安になることがある。すばらしい資質を持っているのに、それを引き出し、伸ばし自分のものになっている者が少ないということである。

これは、自分が何をしたいのか、何になりたいのかというアイデンティティーが確立していないことや、将来のことより今を楽しく適当に生きるという生活態度などが関係していると思われる。この先進国の若者に共通した現象は、集団や組織よりは“個の尊重”へという社会構造の変化を反映するものであろう。加えて、家族や地域社会の機能不全も伴い、個の自立を支援するシステムが機能しなくなり、一人一人の格差が大きくなっている。これが人間にとって望ましい本来の姿なのかと考えさせられる。

深刻なのは基本的な生活技能の不足と自覚のなさにある。挨拶や我慢ができない、判らないと投げ出してしまふ、他者の気持ちが判らない、自分の感情をストレートに出すなどなどである。アメリカでは20年前頃から、ソーシャルスキルトレーニングが大流行しているが、今やわが国でも不可欠なものになりつつある。

本人は、自発来談しないし、強制することも困難だが、厳しいルールを回避する若者たちを私たちは拱手傍観するしかないのであろうか。

青年の家を訪れない若者にできることはないのであろうか。みんなで考え、実行する必要がある。



夏の主催事業案内

- 国際青年交流「瀬戸内海環境フォーラム」
- 海辺のアドベンチャーキャンプ
- 体験航海セミナー
- カッターズ・キャンプ(夏キャンプ)
- ボランティア・ネットワーク・フォーラム

2
3

施設の改修

楽しく安全に利用できる施設を目指します

6

ご利用案内

カッター研修に参加してみませんか
海辺の清掃活動

7

春の主催事業報告

- 野外活動指導者養成講座(第1回)
- カッターズ・キャンプ(春キャンプ)

4

交通案内

巻頭言執筆者紹介

平成17年4月23日
呉の港に大和ミュージアムオープン!

8

新人職員紹介

5